### 悠久の伝統をつなぐ 豪華絢爛とよま秋まつり

340年以上の伝統を誇る「とよま秋まつり」(登米秋まつり協賛会主催)は9月15、16の両日、登米地域内で開かれ、薪能、神楽大会や山車の行進など、さまざまな催しに大勢の見物客が訪れました。

「山車総見審査会」には、歌舞伎の演目やアニメなど、 趣向を凝らした山車9基が登場。家族で来場した相原 賞太くん(8)=仙台市=は「お母さんの実家が登米な ので毎年来ています。どの山車も迫力がある。表情も細 かく作っていてすごかった」と目を輝かせていました。 まつりは、1675(延宝3)年から始まったとされ、県指 定無形民俗文化財に指定されています。



お囃子の笛や太鼓の音色が響き渡り、山車は九日町町内会がく 年連続で最高賞の「風流大賞」を受賞しました。

## 新工場立地で活性化

#### 食品関連産業の発展期待

「トライデントオサベフーズの登米市への立地に関する協定式」は9月3日、市役所迫庁舎で開かれ、市は水産加工業トライデントオサベフーズ(鈴木幸一社長)と新工場建設の立地協定を結びました。

協定には、新工場建設の工事が円滑に進むように支援することや地元からの雇用に配慮することなど、操業の開始に向けて相互に協力していく内容が盛り込まれています。熊谷盛廣市長は「企業誘致活動が実を結び大変喜ばしい。水産加工業が加わり、地域経済の活性化や食品関連産業の発展を期待している」と話しました。操業は平成31年3月を予定しています。



協定書を手にする熊谷市長(左)と鈴木社長。鈴木社長は「新工場では人材の雇用などに協力していきたい」と語りました。

# さまざまな遊び体験親子でこどもまつり満喫

「第10回登米市こどもまつり」は9月23日、迫体育館および迫公民館で開かれ、多くの親子連れでにぎわいました。

会場は、ステージイベント、キッズサッカー、人形劇のコーナーなどが設けられ、終始子どもたちの笑い声であふれていました。子ども2人と夫婦で訪れた星佑弥さん(32) = 迫町品の浦 = は「娘が生まれてから毎年来ているので、今年で5回目の参加になります。娘たちは工作が好きなので『作ってあそぼうコーナー』を楽しみました。子どもが楽しめるイベントがあることは、親としてもうれしいですね」と笑顔をみせていました。



折り紙ハンドスピナー作りに夢中になる子どもたち。完成が近づ くと、思わず笑顔がこぼれていました。

## クドでピザ焼き挑戦

#### 授業で地域の課題を研究

「クド(かまど)を使ったアウトドアクッキング」は9月11日、登米総合産業高(大内栄幸校長、生徒590人)で開かれ、電気科3年の生徒8人が参加しました。

アウトドアクッキングは、地域課題を研究する「起業 実践」授業の一環で、七面鳥やカモなどを気軽に焼ける ようにすることで、特殊肉の消費拡大やブランド化に つなげたいと実施。参加した高橋千怜さん=登米町岡 谷地=は「クドはコンクリートブロックを組み立てる のでレンガより安く作れ、大きな食材も焼くことがで きます。楽しく気軽にできるので、いろんな人に広めた い」と話していました。



アウトドアクッキングの手始めにビザ焼きに挑戦。今後は、北京 ダック、タンドリーチキンや七面鳥の調理を予定しています。

## 未来を拓く技とモノ 産業フェスに60社が出展

「第14回登米市産業フェスティバル」は9月30日、追 体育館および迫中江中央公園で開かれ、約60社の市内 企業が参加し、最新の技術や製品を紹介しました。

体育館内の企業ブースには、各社で製造している製品の展示や体験コーナーが、屋外には油麩はっとや牛串などの飲食コーナーが設けられ、雨天にもかかわらず約7千人の来場者でにぎわいました。スタンレー宮城製作所のブースで、ねじ締め体験をした佐々木孝志さん(65) = 石巻市 = は「電動ドライバーを使うのが難しかった。初めて来ましたが、さまざまな企業がありますね」と企業の技術に驚いていました。



デクセリアルズなかだ事業所のブースでは、LED電球を入れて作ったペットボトルのランタンに飾り付けを楽しみました。

#### 支え合う思いを紡ぐ

#### カフェで悩み分かち合う

「Cafe Spinning(つむぎかふぇ)」(つぐかふえ主催、佐藤裕枝代表理事)は9月15日、追町にある就労支援センターつなぐで開かれ、障がい者やその家族、福祉関係者らなど約30人が参加しました。

カフェでは、石巻赤十字病院神経内科の加藤量広医師が、てんかんと就労について講話。「発作と障がいは人により違うため、本人に合った就労機会が与えられるべき」と述べました。佐藤代表理事は「障がい者を障がいがあると思わず、一人の人間として接してほしい。全てではなく、困っていることを中心にみんなでサポートできる環境につなげられれば」と話していました。



3. お支援センダーンなくでは、厚がい省の机力移行支援のほか、日常生活などに悩みを持つ人を対象にしたカフェを毎月開催。